

みやぎGPN活動報告 1102



今回の内容

事業所見学会(収録) 太陽熱木材乾燥庫とCLT構造物

令和4年11月2日水曜日、汗ばむような秋晴れの中「2022グリーン購入セミナー（令和5年2月開催予定）」のテーマの現場取材を兼ね、登米市「登米町森林組合」と大衡村「宮城県林業技術総合センター」二つの事業所を訪問し、貴重なお話しと施設の様子を収録して参りました。

★登米町森林組合 Jプロジェクトと太陽熱木材乾燥庫ToSMS

最初にお邪魔したのは写真の歴史を感じさせる建造物、登米町森林組合事務所です。昨年、朝の連続テレビ小説「おかえりモネ」の舞台となった登米市気仙沼市その撮影裏や、昨今の林業事情、また登米町の協議会のJプロジェクト（認証材のチェーンマネジメント）の取組について参事の竹中さんより細やかで丁寧な説明がありました。



この後場所を移動して、今回の見学の目玉となる太陽熱木材乾燥庫「ToSMS」へ向かいました。



南面に波トタンが張られているビニールハウス？波トタンの下側隙間から外気が取り込まれ温められた空気が上昇する。その温風をハウス内に取り込み、送られた温風をハウス内で循環させ、ハウス下側から低い温度の空気を気圧により排出するという簡単な構造です

★宮城県林業技術総合センター CLT構造物について

森林大国の日本では、林業の振興やCO₂排出量を削減に向けて国産材の活用が期待されています。S造やRC造が主流の中大規模建築物でも利用できる、直交集成板のCLT（クロス・ラミネーティッド・ティンバー）で木造構造物をつくる取り組みが少しずつ進んでいます。地球温暖化の原因と言われているCO₂（二酸化炭素）は、全排出量のうち約3分の1を建築関連が占めると推計されています。森林は木が成長する過程でCO₂を吸収して固定するため、木材利用拡大によるCO₂排出量低減に注目が集まっています。セメントや鉄の製造に由来するCO₂の排出量が多いため建築物に木材を使うと長期間CO₂を固定できるため、CO₂排出量を抑えられます。



まず最初に、CLTについて、またCLTのメリットとその動向について（株）櫻田建築設計事務所の吉田部長にお話しいただきました。その後、（株）橋本店より提供いただいたCLT構造物である宮城県林業技術総合センター完成までの記録動画について解説頂きました。



★見学の様子

センターの外観で特に目を引くのが写真左の研修棟です。柱のない張り出しに見られる三角形の梁はCLTで、その長さは何と2m以上あります。CLTならではの感じはこのような感じでした。